

2023年度 期中評価（投資計画）について

2024年10月7日
四国電力送配電株式会社

1. 変電設備の投資量について

2. 工事件名の説明

- 変電設備における投資量について、主要設備である変圧器・遮断器は計画に対して未達となりました。
- 計画未達の主な要因は、事業者からの申し出に伴う工程変更や工事の取止め、および納期遅れ等の影響による工事竣工時期の繰延べによるものです。
- これらの要因により、2024年度以降に工事竣工が繰延べになったものは、事業者や工事業者と実施時期等を綿密に再調整するなどにより、第1規制期間の計画を達成できるように取り組んでまいります。

■ 投資量の2023年度実績

主要設備	計画 (A)	実績 (B)	差 (B-A)	達成率 (B/A)	主な要因内訳
変圧器	8台	5台	▲3台	63%	- 事業者からの申し出に伴う工事時期繰延べ (▲1台) - 工事取止め (▲2台)
遮断器	22台	18台	▲4台	82%	- 事業者からの申し出に伴う工事時期繰延べ (▲1台) - 工事取止め (▲1台) - 納期遅れやそれに伴う停電調整による工事時期繰延べ (▲2台)

1. 変電設備の投資量について

2. 工事件名の説明

2023年度に実施した工事件名のうち、効率化およびエスカレ等の単価変動がある本件名について説明させていただきます。

【工事概要】

- 伊方南幹線No.3～10, No.19～29の電線は1976年～1984年に建設された経年37～45年（2022年度時点）の電線である。
- 今回高経年化リスクの低減を図るため、当該区間の電線張替を実施した。

工事概要図

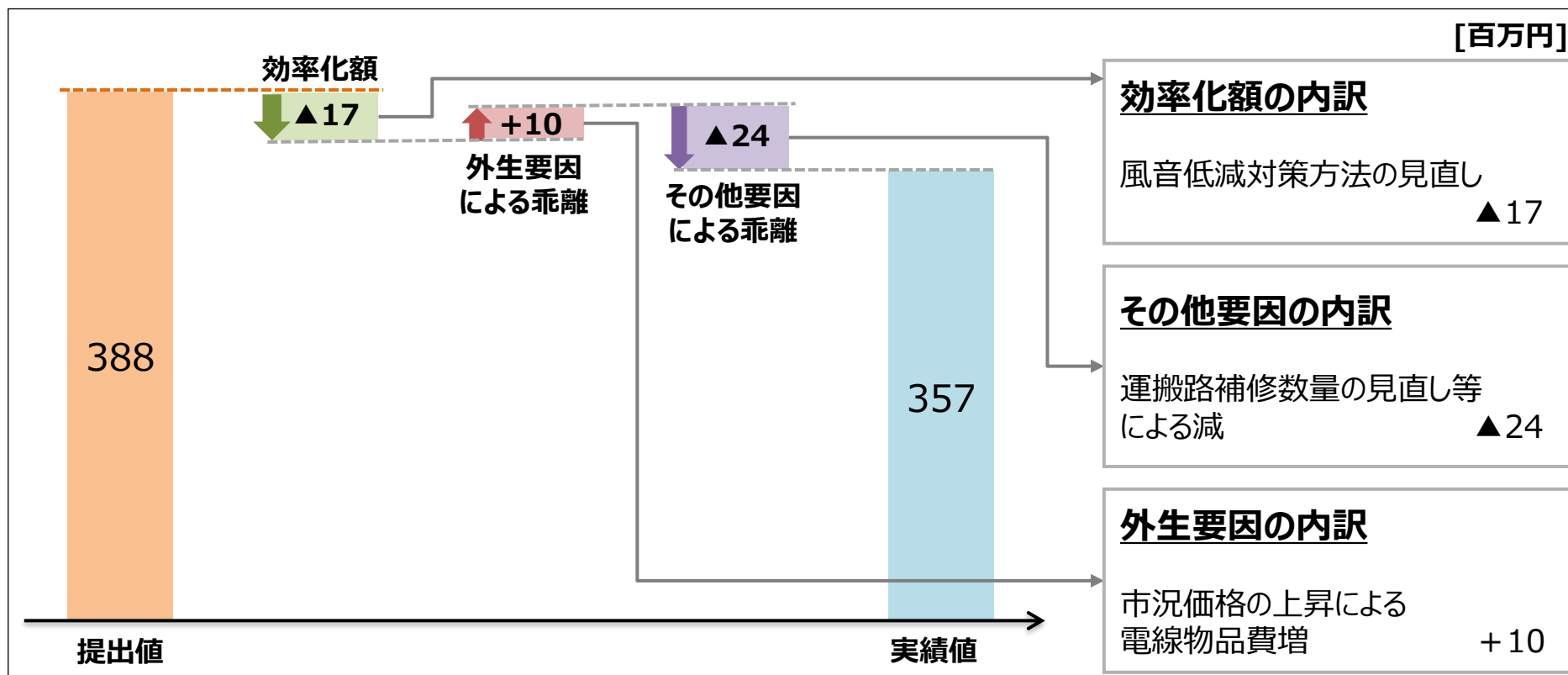
※本平面図は電子地形図(タイル)[国土地理院]を加工して作成



2. 伊方南幹線電線張替Ⅲ期工事の計画実績差について（概要）

【主な計画実績差、発生要因等】

- 総工事費は、提出値388百万円に対して、実績は357百万円と30百万円の減となっている。
- 主な乖離要因は、風音低減対策方法の見直しによる効率化を図ったことに伴い電線工事費が17百万円減少したことや市況価格の上昇により電線物品費が10百万円増加したことである。



2. 伊方南幹線電線張替Ⅲ期工事の計画実績差について（詳細）

【効率化施策：風音低減対策方法の見直しによる工事費の低減▲17百万円】

- 今回の電線張替区間については周辺環境を考慮し、風音低減対策として電線にスパイラルロッドを巻き付けていた。
- 当初計画では風音低減対策として、既設設備と同様に電線にスパイラルロッドの巻き付けを行うこととしていたが、風音低減効果のある電線を採用することで、電線物品代は増加するものの、作業員が電線に直接乗り出しスパイラルロッドの巻き付けを行う費用を削減し、工事費全体の低減を図った。

[電線種類変更 + 27百万円、スパイラルロッド巻き付け費用▲44百万円]

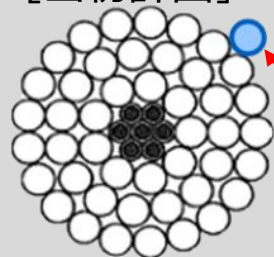
【市況価格の上昇：電線物品費の増 + 10百万円】

- アルミ市況価格の高騰などにより電線物品費が増加した。

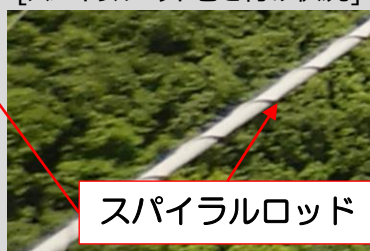
[今回影響：電線物品費提出値対比+14%程度]

【風音低減対策方法の見直しについて】

[当初計画]

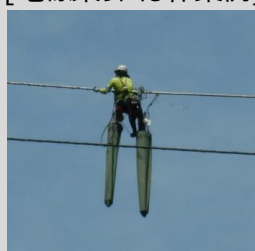


[スパイラルロッド巻き付け状況]

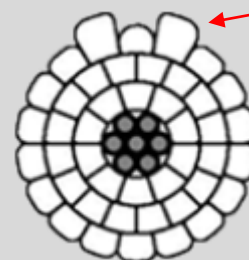


スパイラルロッド

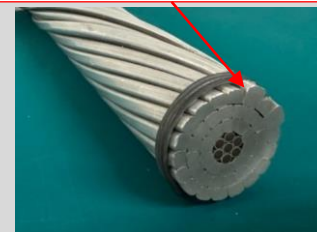
[電線乗り出し作業例]



[今回採用]



ヒレ状の突起により風音を低減



- 風音低減対策として電線にスパイラルロッドを巻き付け
- スパイラルロッド巻き付けにあたり作業員が電線に乗り出しする必要あり

- ヒレ状の突起により風音を低減
- スパイラルロッド巻き付けの必要なし